

JVC

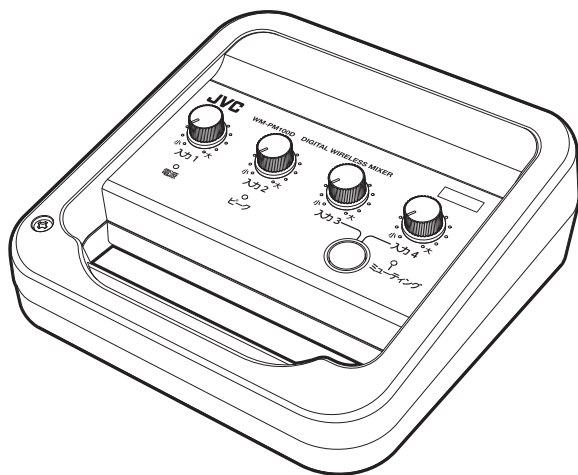
デジタルワイヤレスミキサー

型名

WM-PM100D

取扱説明書

技術基準適合証明品



お買い上げありがとうございます。

ご使用前に、この「取扱説明書」をお読みのうえ、正しくお使いください。

特に「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。

お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときお読みください。

製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は本機に製造番号が正しく記されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているかお確かめください。

特長

デジタル方式を採用

本機は、当社製デジタルワイヤレスマイクロホンシステムに対応したデジタルワイヤレスミキサーです。

800 MHz 帯 B 型デジタル方式を採用しています。

ミキシング音声をワイヤレス送信

接続された機器の音声をミキシングして送信することができます。

混信・妨害に強い

従来のアナログ方式に比べて混信・妨害に強く、安定した運用が可能です。

セキュリティ

音声情報の秘匿化により、盗聴に対して高いセキュリティを実現できます。

高音質

従来のアナログ方式に比べてノイズが少なく、クリアな音質です。

AC 電源または乾電池での動作が可能

電源は、付属の AC アダプター、または単 3 形乾電池（2 本）の 2 電源方式です。電池は、アルカリ乾電池専用です。

外部マイク入力 4 系統（2 系統はライン入力に切り換え可）を装備

有線マイクや、ポータブル CD、ポータブルオーディオ機器などの音声の再生ができます。

ミュートボタンを装備

入力 3、4 には「ミュートボタン」を装備。呼び出し放送などで一時的に BGM などの音量を下げたいときに便利です。

この取扱説明書の見かた

■本文中の記号の見かた

- **ご注意**：操作上の注意が書かれています。
- **メモ**：機能や使用上の制限など、参考になる内容が書かれています。
- ☞ **☞**：参考ページや参照項目を示しています。

■本書の記載内容について

- 本書の著作権は弊社に帰属します。本書の一部、または全部を弊社に無断で転載、複製などを行うことは禁じられています。
- 本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標、または登録商標です。本書では ™、®、© などのマークは省略してあります。
- 本書に記載されたデザイン、仕様、その他の内容については、改善のため予告なく変更することがあります。

もくじ

はじめに

特長.....	2
安全上のご注意.....	4
正しくお使いいただくためのご注意.....	8
各部の名称とはたらき.....	10

準備

乾電池を入れる.....	14
接続する.....	15
各機器を接続する.....	15
ACアダプターを接続する.....	15
グループ／チャンネルを設定する.....	16
設定スイッチを設定する.....	18
送信出力切換を設定する.....	18
チャンネル数選択を設定する.....	19
グループ種別を設定する.....	19
サブグループを設定する.....	19
セキュリティを設定する.....	20

基本操作

使用例.....	21
上手な使いかた.....	21
操作のしかた.....	21
便利な機能 (ミュートボタンの使いかた).....	22
アナログワイヤレスマイクシステムと 併用する場合.....	22
グループ／チャンネルの設定一覧表.....	24

その他

困ったときは.....	25
保証とアフターサービスについて.....	26
仕様.....	27

安全上のご注意

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産の損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。



危険

この表示（文字含む）を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています



警告

この表示（文字含む）を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています



注意

この表示（文字含む）を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示しています

■ 絵表示の説明

- 注意（警告を含む）が必要なことを示す記号



一般的注意



感電注意

- 必ずしてほしい行為（強制・指示行為）を示す記号



電源プラグを抜く



一般的指示

- してはいけない行為（禁止行為）を示す記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止



水ぬれ禁止

危険

取り扱いについて

取り扱いを誤ると、電池が液もれしたり、発熱や破裂したりして、火災、けがや周囲を汚す原因となりますので、次のことをお守りください。

- 電池はプラス⊕とマイナス⊖の極性を機器の表示どおりに入れる。
- 火の中に投入したり、加熱したりしない。
- プラス⊕とマイナス⊖の端子をショートさせない。また、金属製のネックレスやコインなどの金属小物と一緒に携帯または保管しない。
- 変形させたり、分解、改造したり、直接はんだ付けしない。
- 火のそばや熱器具の周辺など高温になる場所で、使用したり、放置したりしない。
- 釘をさしたり、ハンマーでたたいたり、踏みつけたりしない。



警告

設置について

不安定な場所に置かない。ぐらついている台の上や傾いた所に置かないでください。落ちてけがをしたり、故障、電池の漏液、発火、破裂、火災の原因となります。



本機の上に水の入った物(花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)を置かない。機器の内部に水が入ると、火災や感電の原因となります。



医療機器の近くで使用しない。電磁波で医療機器に影響を与えることがあります。本機の電源を必ず切ってください。



取り扱いについて

万一、次のような異常が発生したときは、そのまま使用しない。火災、感電の原因となります。



- 煙が出ている、へんなにおいがするなどの異常のとき。
- 画面が映らない、音が出ないなどの故障のとき。
- 内部に水や物が入ってしまったとき。
- 落したり、キャビネットが破損したりしたとき。
- 電源コードが傷んだとき。(芯線の露出、断線など)

このようなときは、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

煙が出ているときは、止まったのを確かめてから販売店に修理を依頼してください。

お客様ご自身が修理することは危険です。絶対にやめてください。

<次のページにつづく>



警告

取り扱いについて

表示された電源電圧(交流100V)以外で使用しない。
火災、感電の原因となります。



電源コードを傷つけない。
電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。



- 電源コードを加工しない。
- 無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしない。
- 電源コードの上に機器本体や重い物をのせない。
- 電源コードを熱器具に近づけない。

取り扱いを誤ると、電池が液もれしたり、発熱や破裂したりして、火災、けがや周囲を汚す原因となりますので、次のことをお守りください。



- 電子レンジや高圧容器に入れない。
- 電池の使用、保管時に異臭を発生したり、発熱したり、変色、変形その他、今までと異なることに気付いたら、機器から取りはずし使用を中止する。
- 万一、もれた液体が目に入ると、失明の恐れがあるので、こすらないですぐにきれいな水で十分洗ったあと、すぐに医師の治療を受けてください。また、電池の液が皮膚や衣服に付着した場合は、皮膚に障害を起こすことがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。



乾電池を取り出したときは、幼児の手の届かない所に保管する。



万一、飲み込んだときは、直ちに医師と相談してください。

乾電池は充電しない。

電池の液もれ、破裂により火災やけがの原因となります。



本機を分解、改造しない。

火災、感電の原因となります。また、本機の改造は法律でも固く禁じられています。



強い衝撃を与えたり、投げつけたりしない。



故障、電池の漏液、発火、破裂、火災の原因となります。

雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグに触れない。



感電の原因となります。

屋外で使用、雷が鳴り出したら人体から本機を遠ざける。



感電の原因となります。

電池ボックスに金属類などの異物を混入させない。



故障、電池の漏液、発火、破裂、火災の原因となります。

梱包箱や梱包袋などは、小さなお子様の手の届く所に置かない。



遊びに使ったりすると、けがや窒息の原因となることがあります。梱包箱・梱包袋は、施工後に回収してください。



注意

設置について

次のような場所に置かない。
火災や感電の原因となることがあります。



- 湿気やほこりの多い所
- 調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たる場所
- 熱器具の近くなど
- 直射日光が当たって温度が上がる所
- 窓ぎわなど水滴の発生しやすい所



本機の上に重い物を置かない。
重い物や本体からはみ出るような大きな物を置くと、バランスがくずれて倒れたり落ちたりして、けがの原因となることがあります。



本機の上に乗らない、ぶら下がらない。



倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。特に小さいお子様がいらっしゃるご家庭では注意してください。

移動するときは、電源プラグや接続コード類をはずす。



接続したまま移動すると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。

取り扱いについて

専用ACアダプターを使う。



指定以外の物を使用すると火災や感電の原因になることがあります。また、本機のACアダプターを他の機器に使用しないでください。火災や感電の原因となることがあります。

指定以外の電池は使用しない。また、新しい電池と一度使用した電池を混ぜて使用しない。電池の破裂、液もれにより、火災やけがの原因となることがあります。



電池を機器内に挿入する場合は、極性表示(プラス $+$ とマイナス $-$ の向き)に注意し、機器の表示どおり正しく入れる。間違えますと電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚す原因となることがあります。



長期間使用しないときは、電源プラグを抜く。
安全および節電のため、電源プラグを抜いてください。



お手入れするときは電源プラグを抜く。
感電の原因となることがあります。



電源プラグはコードの部分を持って抜かない。



電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災・感電の原因となることがあります。プラグの部分を持って抜いてください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因となることがあります。



本機をぬらさない。

故障、発熱、感電の原因となります。



正しくお使いいただくためのご注意

保管および使用場所

■ 次のような場所で使用しない。

誤動作や故障の原因になります。

- ・ 許容動作温度（0 °C ～ 40 °C）範囲外の暑い所や寒い所
- ・ 許容動作湿度（30 % ～ 80 %）範囲外の湿気の多い所
- ・ 変圧器やモーターなど強い磁気を発生する所
- ・ ほこりや砂の多い所
- ・ 振動の激しい所
- ・ 窓ぎわなど水滴の発生しやすい所
- ・ 放射線や X 線、および腐食性ガスの発生する所

■ 直射日光の当たらない、風通しのよい場所に保管する。

■ 長期間（2 週間以上）使用しないときは、乾電池を本機からはずす。

乾電池を本機に入れたままにすると、故障、電池漏液の原因になります。

移動について

■ 移動するときは接続コード類ははずす。

移動するときは、電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

省エネについて

■ 長時間使用しないときは、節電のため、電源を切ってください。

取り扱いについて

■ 機器を重ねて使用しない。

お互いの熱やノイズの影響で誤動作したり故障したり、火災の原因となることがあります。

■ 本機の上に物を置かない。

テレビモニターのような重い物や、本機からはみ出るような大きな物を置くとバランスがくずれて倒れたり、落ちたりしてけがの原因になることがあります。

■ 本機の上に乗らない、ぶら下がらない。

倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。特に小さいお子様には注意してください。

■ 本機の上に水の入った物(花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)を置かない。

機器の内部に水が入ると、火災や感電の原因となります。

■ 内部に物を入れない。

通風孔などから、金属類や燃えやすい物などを入れると火災や感電の原因となります。

■ 「技術基準適合証明書」を表す証明ラベルをはがしたり、破いたりしない。

本機には、電波法に基づく「技術基準適合証明書」を表す証明ラベルが貼ってあります。証明ラベルをはがしたり、破いたりすると、サービスを受けられないことがあります。大切に扱ってください。



■ 本機は精密機器です。

下記のような取り扱いをすると、故障の原因となります。

- ・ 人やかたい物、先がとがった物でたたかない。
- ・ 投げつけたりしない。
- ・ 固い床の上や、水の中に落とさない。

■ 電源を入れたままで電池を取りはずさない。
雑音が出る場合があります。

相互妨害について

■ 混信や妨害を起こすことがあります。

下記のように使用してください。

- 本機をアンテナから 3 m 以上離す。
- 本機同士または本機と他のワイヤレスマイクを 50 cm 以上離す。

メモ：

- 狭い室内など、アンテナから 3 m 以下で使用する場合は、お買い上げ販売店または最寄りのサービス窓口にご相談ください。

■ 本機を携帯電話から 3 m 以上離れて使用する。

本機の近くで携帯電話の発着信があると、ノイズ（“ジー”または“ブーン”という音）を発生することがあります。

ハウリングについて

■ ハウリング現象（“ピーン”または“キーン”という音）が発生する場合は下記の対応を行なってください。

- マイクの方向、位置などを変える。
- マイクをスピーカーから離す。
- デジタルワイヤレスチューナー（以下、ワイヤレスチューナー）の音量を小さくする。

お手入れについて

■ 本機はやわらかい布でふく。

シンナーやベンジンなどでふくと表面が溶けたり、くもったりします。汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤を布につけてふき、あとでからぶきしてください。

電源コードについて

■ 電源コードの上に重い物をのせたり、コードを本機の下敷きにしたりしない。

コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。

使用上のご注意について

■ 分解や改造は法律で禁じられています。

■ 床に落としたり、かたい物に当たったりしないでください。

故障の原因となります。

■ 夏の閉めきった車内のような温度の高い所や、湿度の高い所に置かないでください。

故障の原因となります。

■ 汗や海水のかかる所では使用しないでください。

故障の原因となります。

■ 汚れたときは、乾いた布で軽くふいてください。

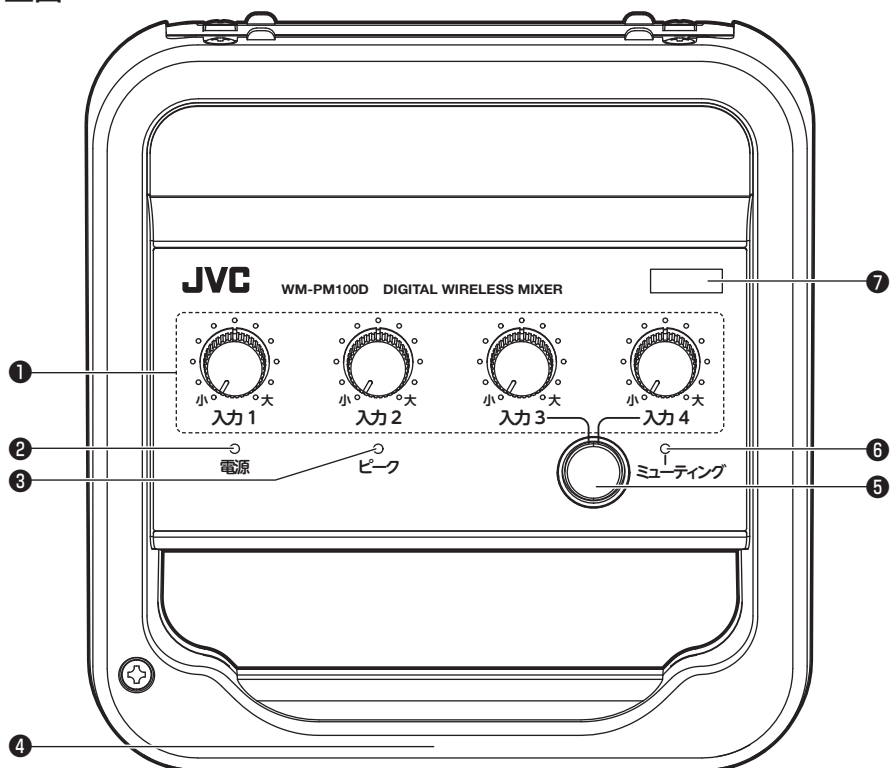
汚れがひどいときは、うすめた中性洗剤をしみこませた布で軽くふいてから、からぶきしてください。ベンジン、シンナー、化学ぞうきは絶対に使用しないでください。

■ 本機を使用している 3 m 以内で携帯電話を使用しないでください。

ノイズが入ることがあります。

各部の名称とはたらき

■ 上面



① 入力1、2、3、4 音量調節つまみ

それぞれの入力端子に接続した有線マイクや機器の音量を調節します。

② 電源ランプ

- 本機背面の電源スイッチを ON にすると、電源ランプが点灯します。
- AC アダプターを使用した場合は、緑点灯になります。(☞ 14 ページ)
- 乾電池使用時は、電池の状態が表示されます。(☞ 14 ページ)
- グループ／チャンネルの誤設定のときに点滅します。(☞ 17 ページ)

③ ピークランプ

過大入力時に赤色に点灯します。点灯しないように、音量を調節してください。

④ 持ち運び用取っ手

⑤ ミューティングボタン

一度押下するとミュート中となり、入力3、4に接続された機器の音量が下がります。(減衰量 20 dB) もう一度押下すると元に戻ります。(☞ 22 ページ)

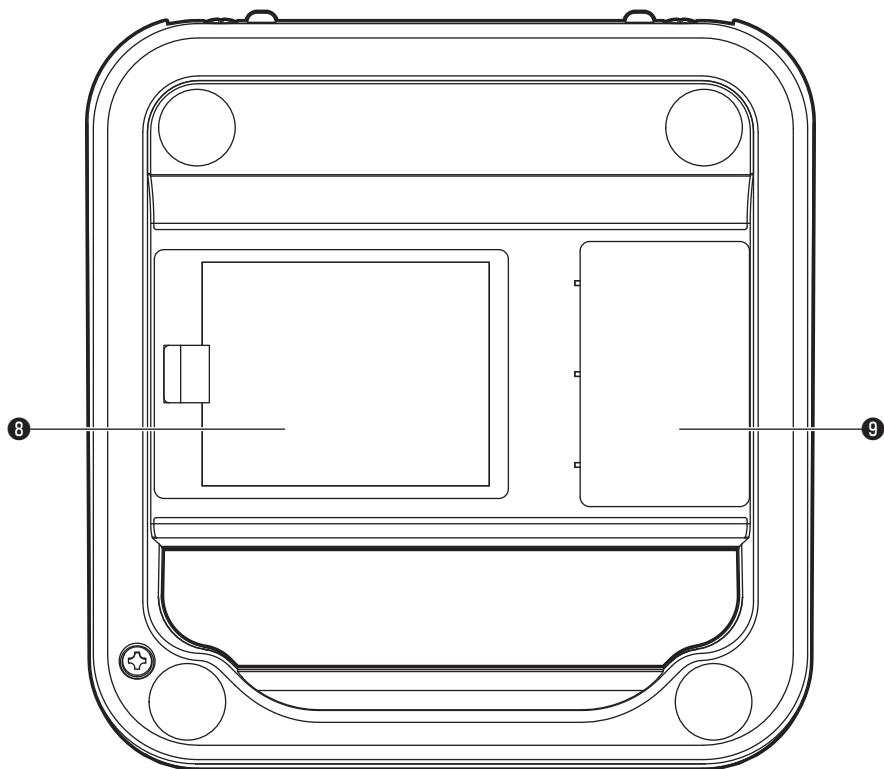
⑥ ミューティングランプ

ミュート中にオレンジ色に点灯します。

⑦ チャンネル表示ラベル貼付部

設定したグループ／チャンネルの番号を貼ります。付属のチャンネル表示ラベルを使用してください。(☞ 17 ページ)

■ 底面



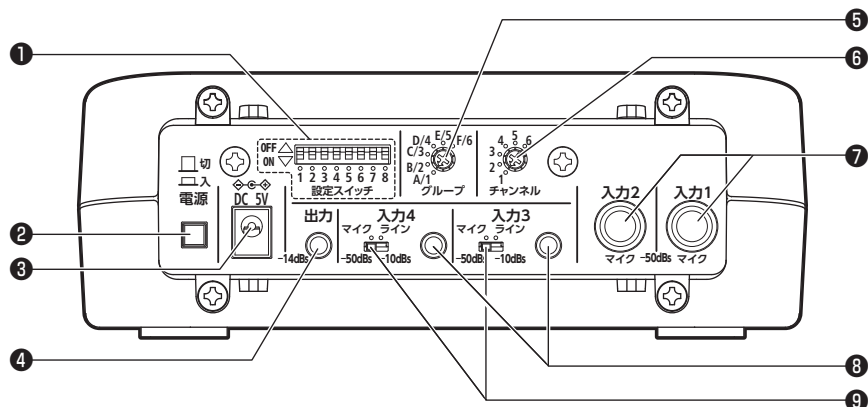
⑧ 電池カバー／電池ボックス

乾電池を入れます。(☞ 14 ページ)

⑨ 証明ラベル

電波法の技術基準適合証明ラベルです。傷ついたり、はがしたりしないでください。

■ 背面

**① 設定スイッチ**

各種設定を行います。(☞ 18 ページ)

② 電源スイッチ

押す (■) と電源が入り、もう一度押す (□) と電源が切れます。

③ 電源 (DC IN) 端子

- AC 電源で使用するときには、付属の AC アダプターを接続します。(☞ 15 ページ)
- AC アダプターを接続すると、乾電池が入っていても、AC アダプターが優先になります。

ご注意:

- AC アダプターの接続をはずしたり、コンセントから抜いたりするときは、必ず電源スイッチを切ってください。電源スイッチを入れたまま行くと、雑音が出ることがあります。

④ 出力端子

録音機器などを接続します。(☞ 15 ページ)
(-14 dBs、1.5 kΩ、不平衡、ステレオミニジャック)

ご注意:

- 接続にはステレオミニプラグをお使いください。モノラルミニプラグを接続するとレベルが低下します。

⑤ グループ設定スイッチ

送信するグループを設定します。(☞ 16 ページ)

⑥ チャンネル設定スイッチ

送信するチャンネルを設定します。(☞ 16 ページ)

⑦ 入力 1、2 端子

有線マイクを接続します。(☞ 15 ページ)
(-50 dBs、2 kΩ、平衡、フォンジャック)

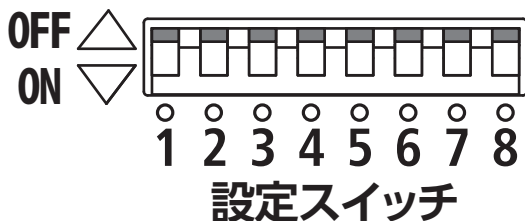
⑧ 入力 3、4 端子

有線マイクまたはポータブル CD プレーヤーなどを接続します。(☞ 15 ページ)
(マイク時 -50 dBs、2 kΩ / ライン時 -10 dBs、10 kΩ 切換、不平衡、ステレオミニジャック)

⑨ 入力 3、4 レベル切換スイッチ

- 入力 3、4 のマイク / ラインを切り換えます。(☞ 15 ページ)
- マイク接続時はマイク (左側) にしてください。

設定スイッチ



各スイッチは、上の位置が OFF、下の位置が ON です。

■ スイッチ番号の設定事項

スイッチ番号	設定事項	OFF	ON	参照ページ
1	送信出力切換	<u>5 mW</u>	1 mW	18 ページ
2	チャンネル数選択	<u>10ch</u>	15ch	19 ページ
3	グループ種別	<u>デジタル</u>	アナログと併用	19 ページ
4	サブグループ設定	「サブグループを設定する」(☞ 19 ページ)		
5				
6	(設定できません)	—	—	—
7	セキュリティID	デジタルワイヤレスチューナー WT-1002D/WT-1004D/ WT-UD100D『取扱説明書』の『セキュリティIDを登録する』 をご覧ください。 参照先のワイヤレスマイクロホンデジタルワイヤレスミキ サーと置き換えてお読みください。 また、スイッチ番号が変更になっていますので、機能名が同 じスイッチを設定してご使用ください。		20 ページ
8	セキュリティ	<u>なし</u>	あり	20 ページ

※ 下線は工場出荷時の設定です。

ご注意：

- チャンネル数選択、グループ種別、サブグループ設定、セキュリティの設定は、ワイヤレスチューナーと同じ設定にしてください。

乾電池を入れる

電池は、アルカリ乾電池専用です。

■ 電池の持続時間について

本機の連続使用時間は下記のとおりです。

使用電池	持続時間
単 3 形アルカリ乾電池 LR6(XJ)	約 10 時間

- 持続時間はめやすです。使用状況、電池の状態、周囲の温度などにより変動します。

■ 電池の消耗について

電源ランプと電池の状態の関係は下記のとおりです。

電源ランプ	電池の状態
緑	使用可 (バッテリー残量：多)
オレンジ	使用可 (バッテリー残量：中)
赤	交換が必要 (バッテリー残量：少)

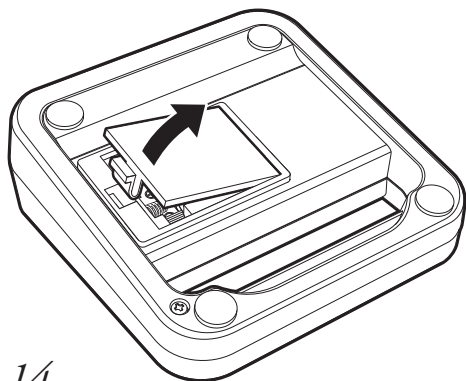
- 電源ランプが赤色に点灯したら、乾電池を交換してください。
- 電源ランプが赤色点灯に変わってから使用できる時間のめやすは 60 分です。使用状況、電池の状態、周囲の温度などにより変動します。

■ 電池の入れ方

1 電源スイッチを切る。

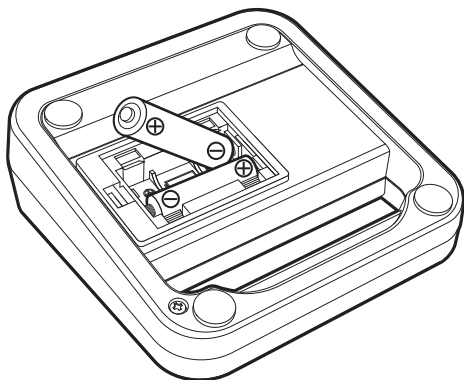
電源ランプが消灯します。

2 底面の電池カバーをはずす。



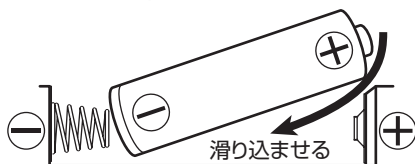
3 電池を入れる。

電池ボックスの⊕⊖の表示に合わせて、単 3 形乾電池 (2 本) を正しく入れる。



ご注意：

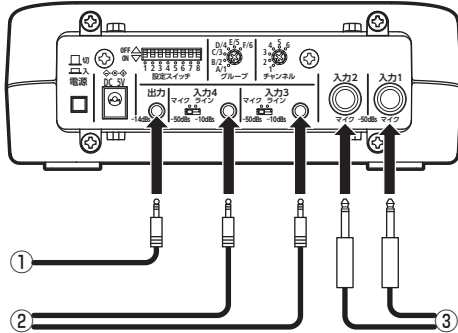
- 新しい電池と一度使用した電池を混ぜて使用しないでください。混ぜて使用すると、液もれを起こす恐れがあります。電池を交換するときは 2 本同時に交換してください。
- 電池を入れるとき、接点のスプリング部で電池に傷をつけたり、カバーを破ったりしてしまうことがあります。発熱、破裂、発煙、発火の恐れがありますので、下図のようにマイナス側接点をスプリングに正しく押し当てながら入れてください。



4 電池カバーを元どおりに取り付ける。

接続する

各機器を接続する



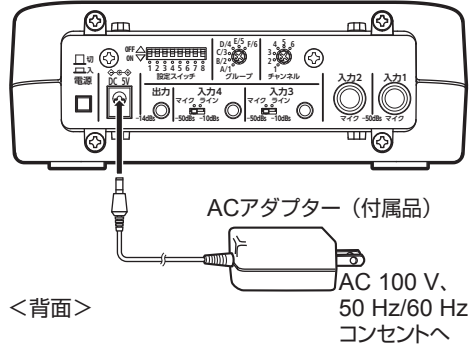
<背面>

- ① 録音機器などの入力端子へ (ステレオミニプラグ)
- ② 有線マイクまたはポータブル CD プレーヤーなどへ (ステレオミニプラグ)
- ③ 有線マイクへ

ご注意:

- ③有線マイクのプラグは、必ず単頭 (不平衡) フォンプラグ、または複式 (平衡) フォンプラグをご使用ください。
- 入力 3、4 にマイクを接続するときは、入力 3、4 レベル切換スイッチをマイク (左側) にしてください。また、接続には必ずモノラルミニプラグをお使いください。
- 入力 3、4 とポータブル CD プレーヤー等との接続、および出力と録音機器等との接続にはステレオミニプラグをお使いください。モノラルミニプラグを接続するとレベルが低下します。

AC アダプターを接続する



<背面>

ご注意:

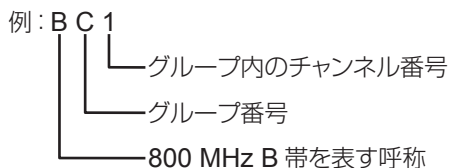
- AC アダプターの接続をはずしたり、コンセントから抜いたりするときは、必ず電源スイッチを切ってください。電源スイッチを入れたまま行くと、雑音が出ることがあります。

グループ／チャンネルを設定する

- ワイヤレスチューナーのグループ／チャンネル設定に合わせて設定します。
- 設定をするときは、ワイヤレスチューナーの取扱説明書もご覧ください。
- 組み合わせ可能なワイヤレスチューナーおよびワイヤレスチューナーユニットは、WT-1002D、WT-1004D、WT-UD1003D、WT-UD100D です。

メモ：

- 本文中では、グループ／チャンネルの組み合わせの表記に“B”を付けて記載しています。



1 本機の電源スイッチを切る。

電源ランプが消灯します。

2 グループ／チャンネルの組み合わせを選択する。

グループ／チャンネルの設定組み合わせは下表をご覧ください。また、下表にない組み合わせは使用できません。

<グループ／チャンネル組み合わせ表>

呼称	チャンネル	1	2	3	4	5	6
	グループ						
B	A	BA1	BA2	BA3	BA4	BA5	—
	B	BB1	BB2	BB3	BB4	BB5	—
	C	BC1	BC2	BC3	BC4	BC5	—
	D	BD1	BD2	BD3	BD4	BD5	—
	E	BE1	BE2	BE3	BE4	BE5	—
	F	BF1	BF2	BF3	BF4	BF5	—

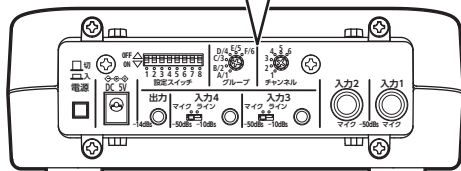
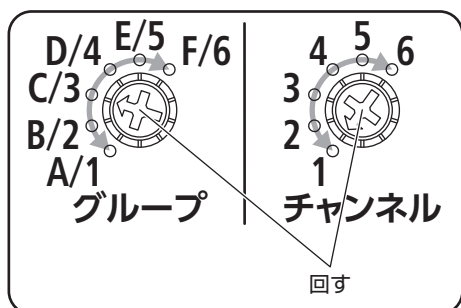
- “—” 部の設定は使用できません。
(工場出荷時：「BC1」)

ご注意：

- 本機およびデジタルワイヤレスマイクを 1～5 台で使用する場合は、グループを A～F から 1 つ選択してください。6～10 台で使用する場合は、グループを A B、または C D、または E F から 2 つ選択してください。11～15 台で使用する場合は、チャンネル数選択の設定を「15ch」にし、グループを A D E、または B C F から 3 つ選択してください。
(P. 24 ページ)

3 グループ／チャンネルを設定する。

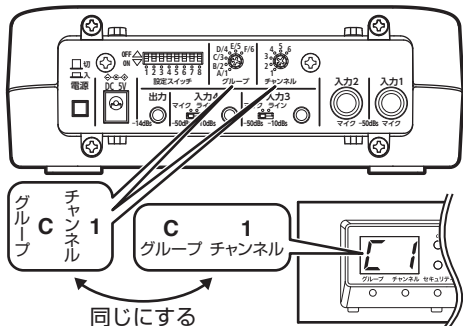
付属の小型ドライバーで、本機背面のグループ／チャンネル設定スイッチの矢印を手順 2 で選択した値に合わせます。



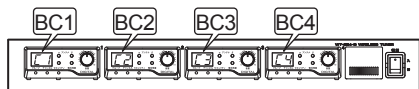
<背面>

ご注意：

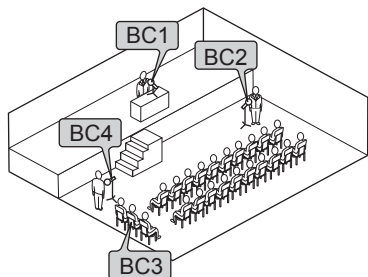
- グループ／チャンネルスイッチを、頻繁に回したり、強い力で押し付けたりしないでください。故障の原因となります。
- 本機の電源を入れたまま、グループ／チャンネルの設定を変更しても、新しい設定になりません。一度電源を切り、再び電源を入れると、新しい設定に変更されます。
- 本機とワイヤレスチューナーのグループ／チャンネル設定が同じになるように設定してください。



- 同一場所で、本機およびデジタルワイヤレスマイクを同時に2～5台で使用する場合は、同じグループで違うチャンネルに設定してください。6台以上使用する場合は、同時使用できるグループを選択してください。(P. 24 ページ)



<ワイヤレスチューナー>



4 ワイヤレスチューナーで受信を確認する。

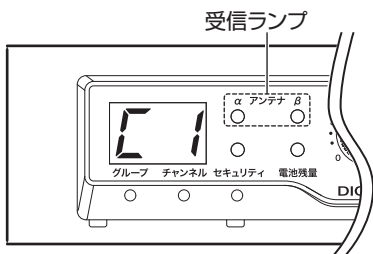
本機の電源を入れます。

ご注意：

- 正常に設定されていない場合、本機の電源を入れると、電源ランプが緑と赤に交互に点灯します。グループ／チャンネル設定を見直してください。

近くにワイヤレスチューナーがあるときの確認方法

本機の電源を入れたとき、ワイヤレスチューナーの受信ランプが点灯すると、正常に設定されています。点灯しない場合は、グループ／チャンネル設定を見直してください。



<ワイヤレスチューナー>

メモ：

- 設定が終わったら、付属のチャンネル表示ラベルを本機の所定の場所に貼ることをおすすめします。

設定スイッチを設定する

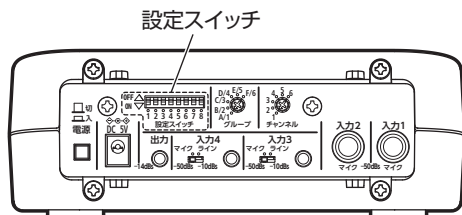
使用場所に応じて、設定スイッチを ON、OFF のどちらかに設定します。

1 本機の電源スイッチを切る。

電源ランプが消灯します。

2 背面の設定スイッチを使用場所に応じて設定する。

付属の小型ドライバーなどを使って本機背面の設定スイッチを設定します。



<背面>

(工場出荷時：すべて「OFF」)

■ スイッチ番号の設定事項

スイッチ番号	設定事項	OFF	ON
1	送信出力 切換	5 mW	1 mW
2	チャンネル 数選択	10ch	15ch
3	グループ 種別	デジタル	アナログと併用
4	サブグルー プ設定	「サブグループを設定する」 (※ 19ページ)	
6	(設定でき ません)	—	
7	セキュリティ ID	デジタルワイヤレスチューナー WT-1002D/WT-1004D/ WT-UD100D『取扱説明書』 の『セキュリティIDを登録す る』をご覧ください。	
8	セキュリティ	なし	あり

ご注意：

- チャンネル数選択、グループ種別、サブグループ設定、セキュリティの設定は、ワイヤレスチューナーと同じ設定にしてください。
- 本機の電源を入れたまま、設定スイッチを変更しても、新しい設定になりません。一度電源を切り、再び電源を入れると、新しい設定に変更されます。

送信出力切換を設定する

送信出力切換の設定は、設定スイッチの1番を OFF、ON のどちらかに設定します。

OFF: 5 mW ON: 1 mW
 1 1

(工場出荷時：「5 mW」)


- アンテナから距離がある場所で使用する場合は、「5 mW」に設定します。
- 狭い場所または、近くで複数のチャンネルを使用している場合は、「1 mW」に設定します。

ご注意：

- 本機の電源を入れたまま送信出力切換の設定を変更しても、新しい設定になりません。一度電源を切り、再び電源を入れると、新しい設定に変更されます。

チャンネル数選択を設定する

チャンネル数選択の設定は、設定スイッチの2番を OFF、ON のどちらかに設定します。

 OFF: 10ch  ON: 15ch
 

(工場出荷時: 「10ch」)

- 同一空間で使用する本機およびデジタルワイヤレスマイクが 10 台以下の場合、「10ch」に設定します。
- 同一空間で使用する本機およびデジタルワイヤレスマイクが 11 台以上の場合、「15ch」に設定します。

ご注意:

- 本機の電源を入れたままチャンネル数選択の設定を変更しても、新しい設定になりません。
一度電源を切り、再び電源を入れると、新しい設定に変更されます。
- 「15ch」は「10ch」に比べて音質が低下します。

グループ種別を設定する

グループ種別の設定は、設定スイッチの3番を OFF、ON のどちらかに設定します。

 OFF: デジタル  ON: アナログと併用
 

(工場出荷時: 「デジタル」)





- アナログ方式のマイクと同一空間で使うときは「アナログと併用」に設定します。
([P.22](#) ページ)





ご注意:





- 本機の電源を入れたままグループ種別の設定を変更しても、新しい設定になりません。
一度電源を切り、再び電源を入れると、新しい設定に変更されます。





サブグループを設定する

サブグループの設定は、設定スイッチの4番と5番を OFF、ON のどちらかに設定します。

  4: OFF : 0(なし)
  5: OFF

  4: ON : 1
  5: OFF

  4: OFF : 2
  5: ON

  4: ON : 3
  5: ON

(工場出荷時: 「なし」)

- 近接した空間で同じグループ、チャンネルを使用する場合など、混信を防ぎたいときは、「1」～「3」に設定します。
- 同じサブグループ番号に設定したワイヤレスチューナーで音声を出力します。

■ 音声を出力する組み合わせ

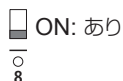
ワイヤレス チューナー マイク	「00 (なし)」	「01」	「10」	「11」
「0 (なし)」	○	×	×	×
「1」	○	○	×	×
「2」	○	×	○	×
「3」	○	×	×	○

ご注意:

- 本機の電源を入れたままサブグループ設定を変更しても、新しい設定になりません。
一度電源を切り、再び電源を入れると、新しい設定に変更されます。

セキュリティを設定する

セキュリティの設定は、設定スイッチの 8 番を OFF、ON のどちらかに設定します。



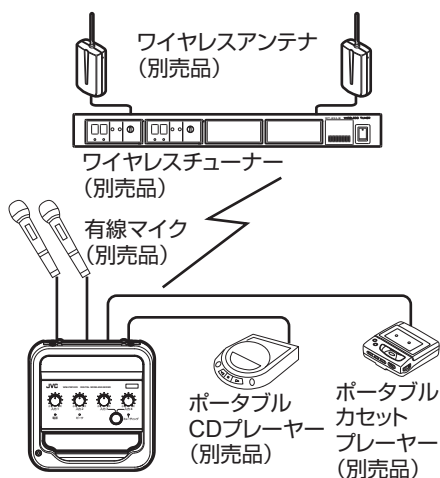
(工場出荷時: 「なし」)

- 「あり」に設定した場合、ワイヤレスチューナーを認証登録していないと音声を出力できません。
- セキュリティの認証登録、および設定スイッチの 7 番 (セキュリティ ID) については、デジタルワイヤレスチューナー WT-1002D/WT-1004D/WT-UD100D 『取扱説明書』の『セキュリティ ID を登録する』をご覧ください。

ご注意:

- 本機の電源を入れたままセキュリティの設定を変更しても、新しい設定になりません。
一度電源を切り、再び電源を入れると、新しい設定に変更されます。

使用例



上手な使いかた

■ マイクと口元の距離

マイクは口元から 5 cm 程度離すようにすると、音の明瞭性が良くなります。

■ 本機とワイヤレスマイクの距離

ワイヤレスマイクを使用するときは、本機とワイヤレスマイク間の距離を 50 cm 以上離して使用してください。近づけすぎると、混信したり、音が途切れたりすることがあります。

■ 本機と受信アンテナの距離

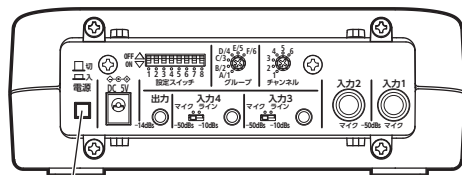
本機と受信アンテナの距離は、3 m 以上離して使用してください。距離が近過ぎると、混信したり、誤動作したりすることがあります。やむをえず近づけて使用する場合は、ワイヤレスチューナーのアンテナアッテネーターを入れることをおすすめします。

操作のしかた

操作をする前に次のことを確認してください。

- 本機とワイヤレスチューナーのグループおよびチャンネルが同じ番号に設定されていることを確認してください。
- 付属の AC アダプターが本機と AC 100 V コンセントに正しく接続されている、または単 3 形乾電池 (2 本) が正しく入っていることを確認してください。
- 各音量調節つまみは、最小の位置にあることを確認してください。
- 使用する機器 (有線マイク、ポータブル CD プレーヤーなど) を接続してください。

1 電源スイッチを入れる。



電源スイッチ

<背面>

2 各音量調節つまみを時計方向に回して適切な音量に調節する。

3 マイク放送をする。

マイクに向かって話すと、放送されます。

4 放送が終わったら各音量調節つまみを最小に戻す。

5 すべての放送が終わったら、電源スイッチを切る。

便利な機能

(ミュートボタンの使いかた)

ミュートボタンを押すと、入力 3、4 に接続された機器の音量が小さくなります。(減衰量 20 dB)

たとえば入力 1、2 を使用してマイク放送をするとき、ミュートボタンを押すことにより、入力 3、4 に接続している BGM などの音量を簡単に一定量減衰させることができます。

アナログワイヤレスマイクシステムと併用する場合

本機は、アナログワイヤレスマイクシステムと併用して使うことができます。

ご注意：

- 本機は、アナログワイヤレスマイクシステムとして使用することはできません。また、アナログワイヤレスチューナーでの受信はできません。
- 本機をアナログワイヤレスマイクシステムと併用した場合、グループ/チャンネルのみ設定できます。

1 グループ種別を設定する。

背面の設定スイッチで、グループ種別を「アナログと併用」に設定します。(19 ページ)

 ON: アナログと併用


3

2 グループ/チャンネルの組み合わせを選択する。

グループ/チャンネルの組み合わせは下表をご覧ください。

<アナログ併用時のグループ/チャンネル組み合わせ表>

呼称	チャンネル	1	2	3	4	5	6
	グループ						
B	1	B11	B12	B13	B14	B15	B16
	2	B21	B22	B23	B24	B25	B26
	3	B31	B32	B33	B34	B35	B36
	4	B41	B42	B43	B44	B45	B46
	5	B51	B52	B53	B54	B55	—
	6	B61	—	—	—	—	—

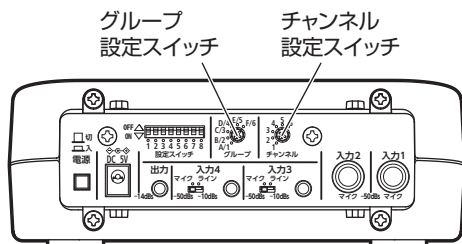
- “—” 部の設定は使用できません。
- グループ/チャンネルの組み合わせの“B”は、800 MHz B 帯を表す呼称です。

ご注意： _____

- グループを1～6から1つ選択してください。同時に使用できるマイクは最大6本です。
- チャンネル数選択の設定が「10ch」の場合、デジタルマイクは「アナログ併用時のグループ／チャンネル組み合わせ表」の 部 (B11、B12、B21、B22、B31、B32、B44、B45、B52、B53) の設定は同時に使用できません。チャンネル数選択の設定が「15ch」の場合、すべてのグループ／チャンネルで使用できます。
([15](#) 24 ページ)

3 グループ／チャンネルを設定する。

背面のグループ／チャンネル設定スイッチで、グループ／チャンネルを設定します。[\(16\)](#) ページ) このとき、グループ設定スイッチは数字がグループを表します。



<背面>

■ グループ／チャンネル構成例

チャンネル数選択の設定「10ch」、
使用グループ「3」
アナログワイヤレスマイク
(アナログ)：3台、
本機またはデジタルワイヤレスマイク
(デジタル)：2台の場合

グループ／チャンネル	使用例 (1)	使用例 (2)	使用例 (3)
B31	使用不可	アナログ／デジタル	アナログ
B32	アナログ／デジタル	使用不可	アナログ
B33	アナログ／デジタル	アナログ／デジタル	アナログ／デジタル
B34	アナログ／デジタル	アナログ／デジタル	アナログ／デジタル
B35	アナログ／デジタル	アナログ／デジタル	アナログ／デジタル
B36	アナログ／デジタル	アナログ／デジタル	使用なし

グループ／チャンネル の設定一覧表

<同時使用できるグループ／チャンネルの一覧表>

運用	本機およびマイク使用台数	チャンネル数 選択の設定 (※ 1)	選択した グループ	同時使用できる グループ／チャンネル
デジタル ワイヤレス マイク システム	1～5	10ch	A	BA1～BA5
			B	BB1～BB5
			C	BC1～BC5
			D	BD1～BD5
			E	BE1～BE5
			F	BF1～BF5
	6～10	10ch	A B	BA1～BA5、BB1～BB5
			C D	BC1～BC5、BD1～BD5
			E F	BE1～BE5、BF1～BF5
11～15	15ch	A D E	BA1～BA5、BD1～BD5、BE1～BE5	
		B C F	BB1～BB5、BC1～BC5、BF1～BF5	
アナログ ワイヤレス マイク システムと併用	1～6	10ch (※ 2) /15ch	1	B11～B16
			2	B21～B26
			3	B31～B36
			4	B41～B46
			5	B51～B55
			6	B61

(※ 1) 本機およびマイクとワイヤレスチューナーのチャンネル数選択の設定を同じにしてください。
(※ 16 ページ、22 ページ)

(※ 2) チャンネル数選択の設定が「10ch」の場合、本機およびデジタルワイヤレスマイクは B11、B12、B21、B22、B31、B32、B44、B45、B52、B53 の設定は同時に使用できません。
(※ 23 ページ)

ご注意：

- 上記以外のグループ／チャンネルで使用した場合、ノイズが発生する、音声途切れる、受信できないなどの影響が出る可能性があります。

困ったときは

使用中に不具合が生じたときは、下記の内容を調べてください。
それでも症状が改善されないときは、お買い上げ販売店または、サービス窓口にお問い合わせください。

症状	確認事項	処置	参照ページ
電源スイッチを“ON”にしても、電源ランプが点灯しない。	電池は正しく入っていますか。	電池を正しく入れてください。	14
	電池切れになっていませんか。	新品の乾電池と交換してください。	14
	ACアダプターのコネクターが抜けていませんか。	ACアダプターのコネクターをしっかりと差し込んでください。	15
電源スイッチを“ON”にしたときや、使用中に、電源ランプが赤色に点灯する。	電池が消耗しています。	新品の乾電池と交換してください。	14
電源スイッチを“ON”にしたとき、電源ランプが緑色⇄赤色と交互に点灯する。	グループ/チャンネル設定スイッチは正しい位置にありますか。	グループ/チャンネル設定スイッチを正しい位置に設定してください。	16
電源スイッチを“ON”にしたときや、使用中に、電源ランプが赤色に点滅する。	—	お買い上げ販売店または、最寄りのサービス窓口にお問い合わせください。	—
送信できない。(ワイヤレスチューナーの受信ランプが点灯しない)	本機とワイヤレスチューナーは、同一グループ/チャンネルに設定されていますか。	本機とワイヤレスチューナーを、同一グループ/チャンネルに設定してください。	16、18
送信できない。(ワイヤレスチューナーの受信ランプがオレンジ色に点灯する)	本機とワイヤレスチューナーは、同一のチャンネル数選択に設定されていますか。	本機とワイヤレスチューナーを、同一のチャンネル数選択に設定してください。	19
※ WT-UD100Dの場合は点灯しません。	セキュリティ機能を使用している場合、本機とワイヤレスチューナーは認証された組み合わせですか。	本機とワイヤレスチューナーを認証された組み合わせでご利用ください。	20
送信できない。(ワイヤレスチューナーの受信ランプは点灯するが、音が出ない)	本機とワイヤレスチューナーは、同一のサブグループ設定に設定されていますか。	本機とワイヤレスチューナーを、同一のサブグループ設定にしてください。	19
雑音が出る、音が途切れる、混信する。	アンテナから離れた場所にいませんか。	アンテナに近づいてください。	—
	本機の近くに金属類や、携帯電話などの無線機器はありませんか。	本機から、金属類や、携帯電話などの無線機器を離してください。	9
	グループ/チャンネルの設定が同じマイクはありませんか。	グループ/チャンネルを正しく設定してください。	16
	本機同士が近づき過ぎていませんか。	本機同士を50 cm以上離してください。	9
	本機とアンテナが近づき過ぎていませんか。	本機とアンテナを3 m以上離してください。	9
	送信出力が大き過ぎませんか。	送信出力切換を、“1 mW”に設定してください。	18

保証とアフターサービスについて

保証書の記載内容ご確認と保存について

この商品には保証書を別途添付しております。保証書はお買い上げ販売店でお渡します。保証書の記載内容により、お買い上げ販売店が修理いたします。なお、修理保証以外の補償はいたしかねます。故障その他による営業上の機会損失は補償いたしません。その他詳細は保証書をご覧ください。

保証期間について

保証期間は、お買い上げ日より1年間です。保証書の記載内容により、お買い上げ販売店が修理いたします。なお、修理保証以外の補償はいたしかねます。故障その他による営業上の機会損失は補償いたしません。その他詳細は保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

保証期間経過後の修理については、お買い上げ販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。

サービス窓口

- 下記 URL をご覧ください。
https://jkpi.jvckenwood.com/support/repair_department.html
- 業務用修理窓口
(045-939-7320)

サービスについてのお問い合わせ先

修理・保守・設置工事については、お買い上げ販売店または最寄りのサービス窓口にご相談ください。

修理を依頼されるときは

お買い上げ販売店、またはサービス窓口にて次のことをお知らせください。

品名	: デジタルワイヤレスミキサー
型名	: WM-PM100D
お買い上げ日	:
故障の状況	: 故障の状態をできるだけ具体的に
ご住所	:
お名前	:
電話番号	:

付属品および添付品について

この取扱説明書に記載されている「小型ドライバー」などの付属品および添付品は、保証期間内でも有償となります。お買い求めの際はお買い上げ販売店、または最寄りのサービス窓口にお問い合わせください。

商品廃棄について

この商品を廃棄する場合は、法令や地域の条例に従って適切に処理してください。

仕様

型名	WM-PM100D
送信周波数	806.125 MHz ~ 809.750 MHz 間の 30 波から 1 波を選択
電波型式	G1E、G1D
発振方式	水晶制御 PLL シンセサイザー方式
変調方式	位相偏移変調方式 ($\pi/4$ シフト QPSK)
空中線電力	5 mW、1 mW 2 段階切換式
アンテナ	本体内蔵方式
実用到達距離	約 100 m (屋外の見通しのよい場所で、当社製チューナー WT-1002D または WT-1004D とアンテナ WT-Q830 との組み合わせ時、かつ空中線電力 5 mW 時)
周波数特性	50 Hz ~ 15 kHz (10ch モード)
音声遅延	2.5 msec 以下 (10ch モード)
セキュリティ機能	あり
同時使用台数	10 (10ch モード) /15 (15ch モード) /6 (アナログ併用時)
入力	4 系統 入力 1、2 ϕ 6.3 フォンジャック -50 dBs 2 k Ω (平衡) 入力 3、4 ϕ 3.5 ステレオミニジャック (L+R モノラル) -50 dBs 2 k Ω / -10 dBs 10 k Ω 切換 (不平衡)
出力	1 系統 ϕ 3.5 ステレオミニジャック (L+R モノラル) -14 dBs 1.5 k Ω (不平衡)
電源	AC 100 V、50 Hz/60 Hz (付属 AC アダプター) DC 3.0 V (単 3 形乾電池 2 本)
消費電流	80 mA (付属 AC アダプター使用時 DC 5.0 V)
使用時間	約 10 時間 (単 3 形アルカリ乾電池使用、常温で連続使用時)
動作温度範囲	0 °C ~ 40 °C
外形寸法	152 mm × 55 mm × 158 mm (幅×高さ×奥行き)
質量	約 370 g (電池含まず)
仕上げ	ABS 樹脂、シボ、黒 (マンセル N-1 近似)
付属品・添付物	保証書 1 取扱説明書 (本書) 1 チャンネル表示ラベル 1 AC アダプター 1 小型ドライバー (設定用) 1

※ 本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

※ 本機は「高調波電流規格 JISC 61000-3-2 適合品」です。

JVCケンウッド
カスタマーサポートセンター

固定電話  0120-2727-87

携帯電話・PHS  0570-010-114

一部のIP電話など 045-450-8950

FAX 045-450-2308

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問い合わせへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

株式会社 JVCケンウッド・公共産業システム

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

ホームページ <https://jkipi.jvckenwood.com/>